

「平佐東小学校の戸田観音棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立平佐東小学校

2 学年・人数

全校児童（計25人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年8月27日（本校体育館）
職員研修で保存会の方々が職員に指導
令和元年9月に5回実施（本校体育館）
保存会の方々と職員で児童に指導

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月27日（日） 10：30
平佐東小学校校庭
秋季大運動会のプログラムとして発表

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

戸田観音棒踊り（とだかんのんぼうおどり）

(2) 由来

長禄3年(1459年)、禰答院渋谷九代領主徳重の愛娘が宮之城で船遊び中に川に落ち、三日後に戸田の渚に遺体が浮かんだ。徳重は娘の冥福を祈って観音様を置くとともに、これは河童の仕業だとして悪さをしないよう観音様の足元に河童の木像を置いた。その後、地域住民は水難よけ、無病息災、安産、馬頭観音としてあがめ、豊作祈願、農村慰安として棒踊りが行われるようになった。

(3) 構成等

戸田観音棒踊りは、かすりにたすきを掛け、手には六尺棒を持ち「オオセエエロオオオ」の唄に合わせ、「イヤ、サッサッ」と打ち合い、地を突く勇壮な踊りである。以前は棒踊り保存会による奉納行事が戸田神社で行われていた。

5 保存会や地域との連携の具体

ふるさと・コミュニケーション科の時間で活動し、棒踊り保存会の御協力のもと指導を受け、全学年で活動し、運動会で地域に披露している。保存会による奉納行事が行われなくなったことから、この棒踊りの伝承者が少なくなっており、地域と一体となって取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

児童数が減ってきており、低学年でも踊れるように振りを変えたり、棒を軽くしたりして工夫し、全校児童で踊っている。また、地域の伝統芸能を継承していく様子を地域の方々に知ってもらうため、毎年運動会の際に、棒踊り保存会の方々の協力についても学校だより（全戸配布）等で広報している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【 練習の様子 】



【保存会の方々】



【秋季大運動会】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想

【参加児童】

「はじめてのぼうおどりで、さいしょはできなかったけど、やさしくおしえてもらったのでおぼえることができた。」

「伝統あるおどりなのできちんとおどれるようになってよかった。」

「平佐東地区の伝統ある踊りなのでこれからも続けていってほしい。」

【保護者】

「平佐東地区の伝統芸能を子供たちが継承していく様子がとてもよかった。今後も続けていってほしい。」

「児童数が減ってきているが、この伝承活動は続けてほしい。」

【保存会】

「棒踊り保存会の存続が難しい中、小学校の子供たちにより引き継がれているので、自分たちにできる協力はしっかりしていきたい。」

【教員】

「郷土愛を育むためにもこの伝承活動は今後も継続して取り組んでいきたい。」